

## 予 算 要 求 資 料

令和6年度当初予算

支出科目 款：衛生費 項：環境管理費 目：環境管理推進費

## 事業名【新】循環経済導入促進事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

環境生活部 廃棄物対策課 資源循環推進係 電話番号：058-272-1111(内2963)

E-mail：c11225@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 3,608 千円 (前年度予算額： 0 千円)

## &lt;財源内訳&gt;

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要求額	3,608	0	0	0	0	0	0	0	3,608
決定額									

## 2 要 求 内 容

## (1) 要求の趣旨(現状と課題)

- ・現在、資源の高騰、市場・社会からの環境配慮要請の高まりを受けて、あらゆる産業が、これまでの廃棄物・環境対策としての3Rではなく、「環境と成長の好循環」につながる循環性の高いビジネスモデルへの転換を図る必要がある。
- ・「廃棄物処理施設整備計画」(令和5年6月閣議決定)、「成長志向型の資源自律経済戦略」(2023年3月31日経済産業省)などでも循環経済への転換の必要性が指摘されており、現在の廃棄物処理や産業構造の転換が求められている。
- ・令和5年9月議会にて循環経済への今後の県対応について質問があり、環境負荷の低減に資する製品の開発や生産に取り組むよう促し、幅広い分野で循環性の高いビジネスモデルへの転換・発展を図っていくと答弁。
- ・循環経済を推進するためには、循環性の高い製品の開発、廃棄物の資源循環が必要であり、そのためには、モノの生産・流通から成る動脈産業と廃棄物の回収・処理から成る静脈産業の連携が必要である。
- ・特に、プラスチック資源循環促進法が令和4年4月に施行、製造・販売事業者等による自主回収や「プラスチック使用製品設計指針」に即した新商品の開発が求められていることから、令和6年度はプラスチック製品を中心に課題として事業を実施する。

## (2) 事業内容

## ①環境配慮型製品の開発を促進

- ・プラスチック製品製造業者、リサイクル業者等を対象に、循環経済全体像の理解を深めるためのセミナーの開催
- ・環境配慮型プラスチック製品を構想するワークショップの開催

## ②循環モデル構築の促進

・現在資源循環が進んでいない製品の再資源化を促進するため、動脈産業、静脈産業、販売店による意見交換会を開催

### (3) 県負担・補助率の考え方

全額県費による実施

### (4) 類似事業の有無

無

## 3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
人件費	84	意見交換会講師への謝金
旅費	275	セミナー等費用弁償、打ち合わせのための職員旅費
需用費	59	資料代、会議費、チラシ・ポスター作製費
役員費	40	通信運搬費
委託料	3,000	セミナー・ワークショップ開催費
その他	150	会場借上料
合計	3,608	

## 決定額の考え方

## 4 参考事項

### (1) 各種計画での位置づけ

地球温暖化防止・気候変動適応計画 施策編にて、循環経済を重点分野に位置づけ。

### (2) 国・他県の状況

宮城県「サーキュラーエコノミー実践支援業務」(R5年度)としてセミナー及びワークショップを実施

### (3) 後年度の財政負担

今後、継続して費用が発生する。

### (4) 事業主体及びその妥当性

循環経済は、異業種間の連携が必要であり、様々な分野での具体的な方策を推進していくため、県が実施することは妥当である。

# 事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

## 1 事業の目標と成果

### （事業目標）

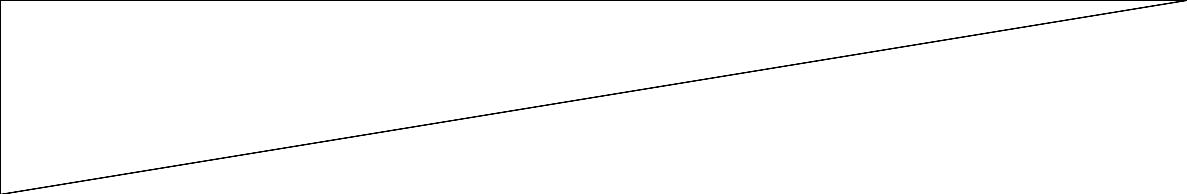
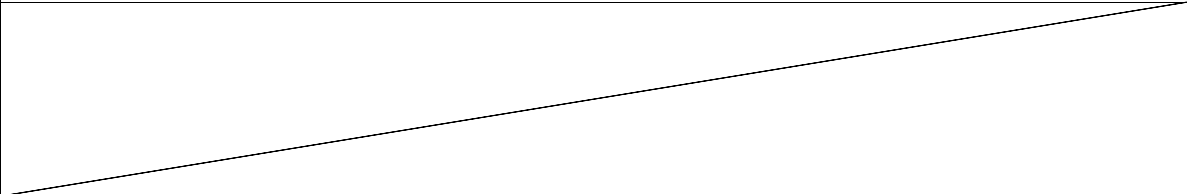
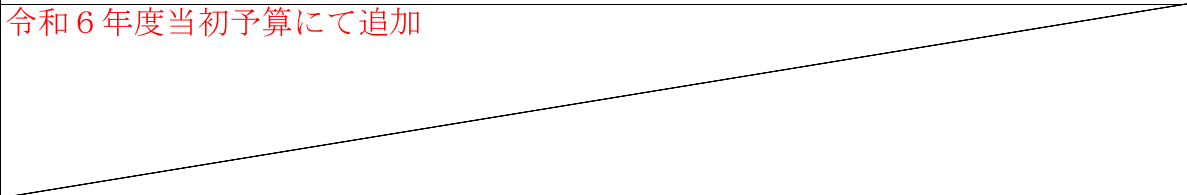
- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか  
令和8年度までに環境配慮型製品の開発を5件以上とする。

### （目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R5)	R4年度 実績	R5年度 目標	R6年度 目標	終期目標 (R8)	達成率
環境配慮型製品の 開発件数	件	件	件	件	5件	

### ○指標を設定することができない場合の理由

### （これまでの取組内容と成果）

令和 3 年度	
	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %
令和 4 年度	
	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %
令和 5 年度	
	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %

令和6年度当初予算にて追加

## 2 事業の評価と課題

### (事業の評価)

<p>・ <b>事業の必要性</b> (社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断)            3 : 増加している 2 : 横ばい 1 : 減少している 0 : ほとんどない</p>	
(評価)	<p>市場・社会からの環境配慮要請の高まりを受けて、あらゆる産業が、これまでの廃棄物・環境対策としての3Rではなく、「環境と成長の好循環」につなげる新たなビジネスチャンスと捉え、経営戦略・事業戦略として、循環性の高いビジネスモデルへの転換を図る必要がある。国は資源循環事業の規模を2020年50兆円、2030年80兆円、2050年120兆円としている。</p>
3	
<p>・ <b>事業の有効性</b> (指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか)            3 : 期待以上の成果あり            2 : 期待どおりの成果あり            1 : 期待どおりの成果が得られていない            0 : ほとんど成果が得られていない</p>	
(評価)	<p>未だ動脈産業と静脈産業をマッチングした環境配慮型製品が開発されておらず、新たな取り組みが必要である。</p>
2	
<p>・ <b>事業の効率性</b> (事業の実施方法の効率化は図られているか)            2 : 上がっている 1 : 横ばい 0 : 下がっている</p>	
(評価)	

### (今後の課題)

<p>・ <b>事業が直面する課題や改善が必要な事項</b>            一般廃棄物、産業廃棄物の減量化を図るため、循環性の高いビジネスモデルへの転換を図る必要がある。</p>
---

### (次年度の方向性)

<p>・ <b>継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか</b>            ・ 環境配慮型製品の開発に取り組む意欲のある企業を増加させる必要がある。</p>
---

### (他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課</p>	【〇〇課】
<p>組み合わせる理由 や期待する効果 など</p>	